

さつま町過疎地域持続的発展計画(案)に係るパブリックコメントの結果

- 1 実施期間 令和7年12月17日(水)～令和8年1月20日(火)
- 2 受付人数 3人(17件)
 ※ 複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
 ※ 御意見については、分野ごとに分けて掲載しています。

3 意見の内容及び町の考え方

No.	区分	意見	御意見に対する町の考え
2	1 基本的な事項	農林業等をどのように継承して行くのかという課題について、外国人労働者を積極的に呼び込み技術を継承して共存できる安定した関係を構築すべきだと考えます。	農林水産業の継承については、担い手不足が大きな課題となっています。外国人労働者の受入れについては、単なる労働力確保にとどまらず、地域社会の一員として共に生活し、協働・共生できる環境づくりが重要であると認識しております。外国人に対する地域住民の理解促進を進めながら、関係機関と連携して持続可能な農林水産業の在り方を検討していきます。
		高齢者も生き生きと生活できるようにするには具体的にどのような方策が考えられるのか、選択肢をメニュー化していただくと分かりやすいと思います。	高齢者が住み慣れた地域でいきいきと、そして安心して生活を続けられる環境づくりは、本町にとっても大変重要なことと認識しております。現在、町では、地域での見守り活動や通いの場づくり、健康づくり教室など多様な取り組みを進めておりますが、高齢者の皆様にも分かりやすい仕組みとなるよう工夫してまいります。
		空き家の増加や耕作放棄地、荒廃山林の増加は相続問題もあり一気に解決することは困難ですが、行政措置としてはどのような手段が取れるのかお示し頂きたいです。	空き家や耕作放棄地、荒廃山林の問題は、相続や所有者不明といった複雑な要因があり、画一的な対応や短期的な解決が困難な課題です。本町では、空き家情報バンクの登録・活用促進、営農の合理化・森林整備への支援など、それぞれの問題に応じた制度や事業を活用し、状況に応じて対応しております。今後も課題解決に向けて、庁内部署間はもちろん、他の関係機関と連携し、実効性のある対策を横断的に検討・実施してまいります。
		地域資源について、永野の観音滝公園は現在放置されています。整備することが町として困難であれば、既に老朽化して危険な構造物などを解体、撤去するなどして、地域の経済的めて昔からの本来の自然な姿に戻すべきではないでしょうか。	永野の観音滝公園については、貴重な地域資源であると考えており、現在、施設の所有者と今後について協議を進めております。

さつま町過疎地域持続的発展計画(案)に係るパブリックコメントの結果

- 1 実施期間 令和7年12月17日(水)～令和8年1月20日(火)
- 2 受付人数 3人(17件)
 ※ 複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
 ※ 御意見については、分野ごとに分けて掲載しています。

3 意見の内容及び町の考え方

No.	区 分	意 見	御意見に対する町の考え
		地域自治組織の積極的な支援とは、具体的にどのようなことを想定されているのかを行政お示してください。	地域自治組織への積極的な支援については、これまでに地域担当職員による人的支援や補助金を含む財政支援やなど進めてまいりました。各地域では、様々な活動を進められておりますが、少子化等による地域人材が不足現在では、多くの課題があるのも事実です。そういったことから、DXを活用した地域負担の軽減や新たな地域支援を地域とともに考え、課題解決に取り組める環境づくりを進めてまいります。
		町単独でやれることは限られているため、地域間交流は積極的に行なっていくべきと考える。特に北薩地域、川内川流域の関係性を強化していくことを期待したい。また、九州北部の立地を生かし、熊本・宮崎をはじめとした九州他県との関わりを深めていくことを明記してはどうだろうか。	より魅力ある地域づくりを進めるには、地域にある様々な資源を活用することが必要だと考えます。近隣地域をはじめとする自治体や、友好交流地域とともにあらゆる分野での交流が、こういった資源に新たな価値観を生み、地域活性化につながるものと思います。これまでの交流を継続しながらも、新たな交流が図られるよう県や関係機関と連携しながら進めてまいります。
2	移住・定住・	西郷菊次郎翁の縁について「各種交流促進を基にMOU(基本合意)を締結した。」とありますが、永野には西郷菊次郎顕彰会があり、毎年剣道大会協賛や顕彰碑への例祭、人材育史跡の清掃活動などを実施しています。町としてはどのような位置づけで西郷菊次郎翁との関係性を持つとされているのでしょうか。	本町におきましては、これまでの歴史の中で関係が深い様々な自治体と広域的な交流を進めてまいりました。その一環としまして、西郷菊次郎翁を縁とした関係自治体とも友好的な交流を行ってまいりましたが、令和6年度には台湾宜蘭市、熊本県菊池市、龍郷町とさらなる交流を進めるためのMOU(基本合意)を締結しております。すでに物流をはじめ、交流が進んでいるものもありますが、今後は、人と人の交流も含め、西郷菊次郎翁に繋いでいただいたご縁を大切に様々な交流が進むよう取り組みを進めてまいります。

さつま町過疎地域持続的発展計画(案)に係るパブリックコメントの結果

- 1 実施期間 令和7年12月17日(水)～令和8年1月20日(火)
- 2 受付人数 3人(17件)
 ※ 複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
 ※ 御意見については、分野ごとに分けて掲載しています。

3 意見の内容及び町の考え方

No.	区 分	意 見	御意見に対する町の考え
3	地域間交流の促進、人材育成	空き家バンクの制度の充実について、さつま町では空き家バンクとして登録できる前提条件や基準などを開示されていますでしょうか？固定資産を管理する住民への周知など具体的な空き家対策の周知を求めます。	空き家バンク制度については、増え続ける空き家を有効活用することで空き家を抑制するとともに、さつま町への定住のきっかけとして進めているものです。ご意見をいただきました空き家バンク制度については、周知に努めているところですが、物件の状態によりケースバイケースとなることもあり、まずはご相談いただくことを入口と考えております。今後も分かりやすい周知に努め、より使っていただける制度となるよう進めてまいります。
		買い物支援対策の取り組みについて、これから買い物弱者が増大することが想定(自動車運転免許証の返納など)されます。人の集まりやすい場所で、曜日などを決めて巡回販売などをご検討いただけませんか。	ご意見をいただきましたとおり、免許返納や身近な買い物環境がなくなるなど買い物弱者が増えることが懸念されています。単に買い物の利便性を高めるだけでなく、外出のきっかけづくりや、地域住民同士の交流の場を創出する観点からも地域交通をはじめとする交通手段を確保することは、大変重要なことと考えております。 現在の公共交通網を含む地域交通だけですべてを解決することは困難であり、今後も利便性と持続性が両立される交通手段について、継続して検討してまいります。
		企業誘致では、大企業だけでなく小規模なスタートアップや個人のフリーランス・クリエイターの誘致や働きやすい環境整備を期待したい。奄美市の「フリーランスが最も働きやすい島化計画」などを参考に、自然豊かでのんびりとしたさつま町での、新しい働き方を開拓することを目指すべきと考えます。	企業誘致については、大企業に限らず、小規模事業者やスタートアップ事業者への支援も重要な担い手の確保と考えています。現在町で実施している創業支援事業により支援を行うとともに、従来から町内で活動している事業者との交流促進を図り、新しいさつま町らしさを創出していくことを目指します。

さつま町過疎地域持続的発展計画(案)に係るパブリックコメントの結果

- 1 実施期間 令和7年12月17日(水)～令和8年1月20日(火)
- 2 受付人数 3人(17件)
 ※ 複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
 ※ 御意見については、分野ごとに分けて掲載しています。

3 意見の内容及び町の考え方

No.	区分	意見	御意見に対する町の考え
4	3 産業の振興	温泉を中心とした観光振興は大賛成である。ユニークなアイデアを実践し、他の温泉地との差別化を期待したい。また、老朽化した施設のアップデートや休業・廃業となった温泉施設の活用を促し「温泉」を軸とした観光を盛り上げ、若者の利用も活性化したい。	本町の魅力ある地域資源の一つである温泉については、古くから町内外を問わず、多くの方々が訪れる観光資源、交流拠点です。一方で、社会的な情勢からほかの地域と同じく、休業や廃業となった施設もあり、課題となっています。こういった施設がどのように活用できるのか様々なご意見をいただきながら、地域資源が活用されるよう進めてまいります。
5	4 地域におけるデジタル化	町民の誰もがデジタル化の恩恵を受けるようにするため、区の公民館や各公民館には光インターネットとWifi環境を整えて、簡単にネットに繋がられる環境の構築を希望します。	誰もがインターネットを含む、デジタル環境を身近に利用できるよう整えることは、地域活性化や人口減少による地域負担の軽減など、多くの利点があると考えております。本町では、地域の拠点である公民館へのWi-Fi環境整備などへ補助を行っており、そういった制度をご活用いただきながら、住みよい地域づくりに努めてまいります。
6	5 交通施設の整備 交通手段の確保	安定的で利便性の高い交通体系の整備については、新たに交通機関を整備することは現実的には困難であると思われることから、事前に登録し運行安全指導等を受けた住民が車での住民の送迎等を行えるようなしくみ作りが必要ではないでしょうか。	交通空白地の解消において、既存の公共交通を補完する住民共助による送迎支援などは、これからの時代に検討すべき重要な視点であると考えております。 町内では、令和7年より、タクシー会社が管理主体となり、一般ドライバーが自家用車などを用いて送迎する日本版ライドシェアが導入され、地域交通網の安定化に向けて一歩前進したところであります。今後も、安全性を確保した上で、交通課題の解決に向け、さらなる対策の検討を進めてまいります。

さつま町過疎地域持続的発展計画(案)に係るパブリックコメントの結果

- 1 実施期間 令和7年12月17日(水)～令和8年1月20日(火)
- 2 受付人数 3人(17件)
 ※ 複数の御意見を提出している場合があるため、受付人数と意見数は一致しません。
 ※ 御意見については、分野ごとに分けて掲載しています。

3 意見の内容及び町の考え方

No.	区 分	意 見	御意見に対する町の考え
		これらの安全上の必要性は住民が最も理解しているため、行政上それらを実現するためには、住民に具体的にどのようにすればよいのかを周知することが大切ではないかと思えます。	防犯・交通安全対策については、現在警察や交通安全協会、安全運転管理協議会などと連携し、普及啓発活動を進めています。また、専門指導員による高齢者や子どもへの交通安全教室などを通じ、住民一人ひとりの意識向上を図っています。今後も地域の声を踏まえながら、分かりやすい交通安全の啓発活動を継続してまいります。
7	7 子育て環境の確保 高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	社会参加と生きがいつくりの場や環境づくりを推進することについて、生きがいつくりをサポートすることも大切ですが、終活サポートなど老い支度を準備する面での支援など必要ではないでしょうか。	高齢化が進む中で、住民の皆様が安心して将来に備えることができる環境づくりは非常に重要であると認識しております。ご意見のありました、終活サポートや終活に対する支援につきましては、今後の高齢者施策や福祉分野の取組を検討する中で、関係機関と連携しながら、必要な支援のあり方について調査・研究を進めてまいります。
8	9 教育の振興	図書館をより良くアップデートして、独自性の高いまちの交流拠点として整備を期待したい。独立した施設を宮之城中心部に新設あるいは屋地のリノベーションを望む。	年代を問わず、多くの方がご利用されている図書館については、図書機能だけでなく、一つの交流拠点として活用されているところです。ご意見をいただきました独自性の高い拠点づくりについては、本町としましても新たな拠点づくりを進めておりますので、皆様のご意見を伺いながら進めてまいります。
9	10 集落の整備	地域DXがフル活用され、負担軽減となる取り組みを期待したい。	社会的な情勢から分野を問わず人手不足が大きな課題となっています。地域におきましても、地域の担い手となる次の世代を育成するとともに、担い手の負担軽減が必須となっています。そういったことから近年のDX化による省力化や負担軽減の仕組みをしっかりと取り入れながら、地域活性化につながるよう進めてまいります。